

初めに本のタイトルがなんで日本が一番人気の国なのだろうかと興味がわき選びました。すでに 15 万部以上売れているベストセラーで、読者にも心地よいのでしょう。またこの本の多くは、関係者からのヒアリングからなっており、著者のお仕事の履歴からもうなずけます。

過去の日本の研究が進んだのは、ライシャワーがハーバードの教授時代 70 年代に書いた「ザ・ジャパニーズ」、80 年代のエズラボーゲルの「ジャパニアズナンバーワン」などに明らかになっています。今では多くの研究者、教授陣がおられるようです。

人気の理由として、ハーバードで、出てくる事例の中で、例えば「テッセイ」JR で清掃業務を請け負っている会社などは、私自身、新幹線に乗る時にこの作業を見ているのですが、手際がいいなあと感心しても、このようなケースの題材になるかとは思いませんでした。

また「六本木ヒルズ」森ビル、「楽天の社内英語化」、「リーダーシップと組織行動」、「手つかずのまま眠る若者と女性の能力」等、興味がありました。

上記事例を生んだ日本の精神的な背景とは

- ・「アメリカ型資本主義は正しいのか、市場原理主義、株主至上主義は何か間違っているとハーバードのエリートも考えるようになった。
- ・「日本が経済成長を遂げたのは清廉で謙虚なリーダーがいて彼らが正しい価値観で、社員を正しく導いたからだ。」
- ・「謙遜の精神がリーダーとなる必要な要素、日本人には、それが自然に身についている」などを教えていることに素晴らしさを感じます。

1900 年に書かれた新渡戸稲造の「武士道」にもどこか日本人の根底にある思想のような気がします。

終わりに、この本を読んでいて、教授陣は日本の研究に熱心な方々、また学生は日本人中心で「一番人気の国・日本」ということに多少違和感があります。それはさておき、日本のいいところをいろいろ研究して頂いて、彼らのセンスで資料化もされ、私達が気がつかないことが研究題材になっていることを感じました。

